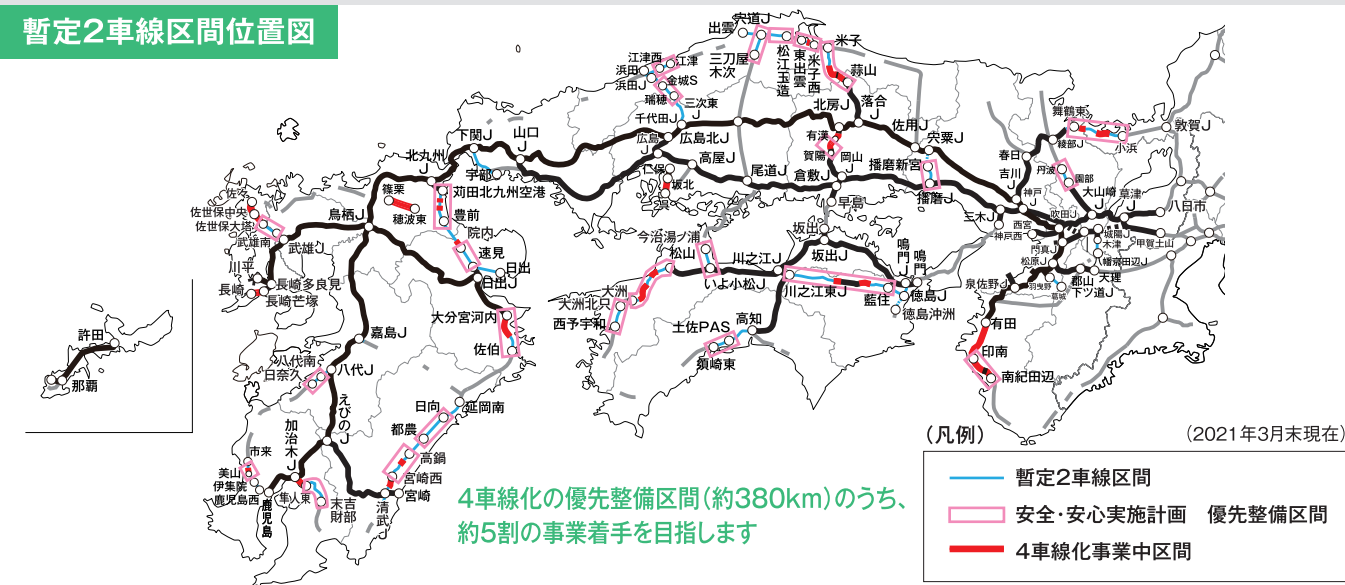


■ ネットワークの強化 ~ 暫定2車線区間の4車線化 ~

信頼性の高い高速道路ネットワークを構築するため
暫定2車線区間の4車線化を推進します。

- 速度低下の解消、事故防止、災害時の早期の交通機能確保を目指し、暫定2車線区間の4車線化を推進します。

暫定2車線区間位置図

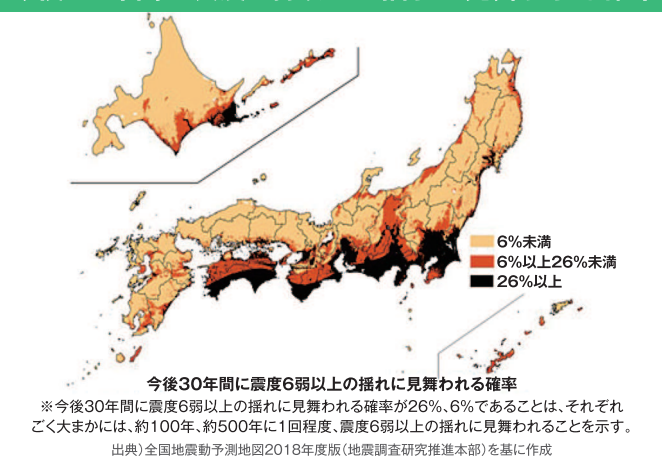


■ 高速道路の強靱化 ~ 耐震性の向上 ~

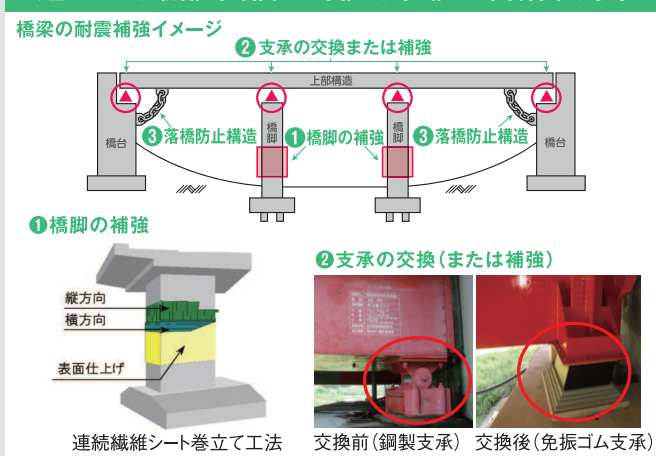
大規模地震にも強い高速道路とするため耐震性を向上します。

- 南海トラフ地震などの大規模地震が発生した際に、速やかに機能回復できるように、橋脚の補強等による落橋・倒壊の防止対策に加え、路面に大きな段差を生じさせないための支承交換などの耐震補強対策を推進します。

今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率



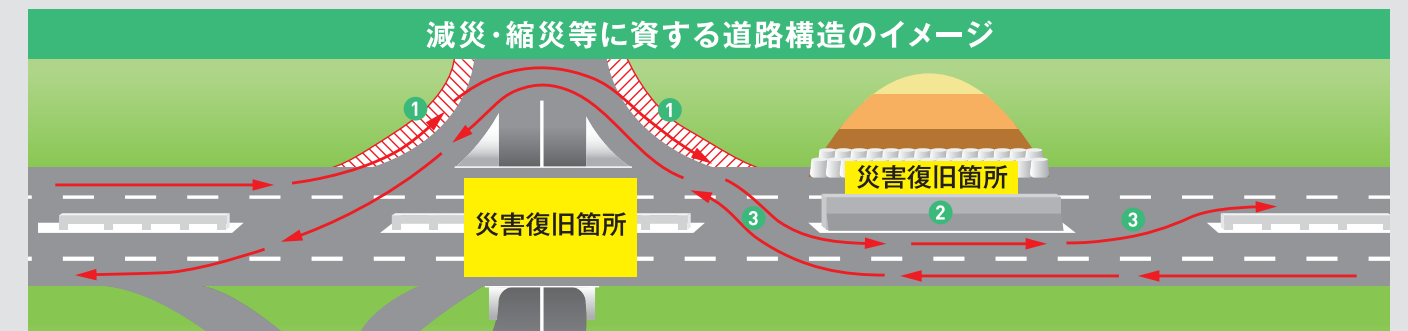
速やかな機能回復が可能な性能を目指す対策



■ 災害対応力の強化

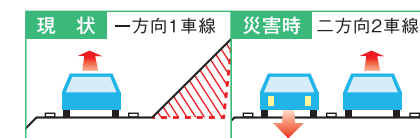
激甚化、頻発化する自然災害に備え災害対応力を強化します。

- 減災・縮災※1、大雪時等の車両滞留解消※2に資するとともに通常時の維持管理も容易とする道路構造(最適管理構造)に改良します。
※1 発災後、概ね1日以内に緊急車両の通行を確保し、概ね1週間以内に一般車両の通行の確保を目指します
※2 大雪等により車両滞留が発生した場合も、早期に滞留解消を図ります
- のり面災害等の発生予測や早期発見を行う常時観測環境を整備します。
- 津波や洪水に備え、地方公共団体などの関係機関と協力し、高速道路を活用した避難施設の整備に取り組みます。



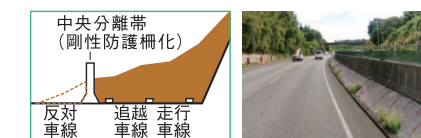
1 ランプ部の路肩拡幅(土工部)

1方向ランプを災害時に対面通行できるように路肩を拡幅



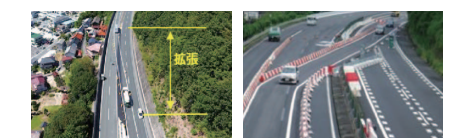
2 中央分離帯の剛性防護柵化

中央分離帯をガードレールから剛性防護柵に改良することで崩落土砂の広がりを最小限に留める



3 中央分離帯開口部の拡張

早期に対面通行や転回ができるように中央分離帯開口部の延長を50mから約130mに拡張



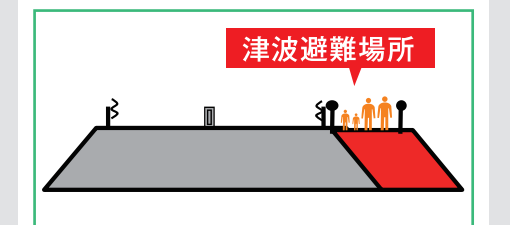
自営回線と無線センサを活用したのり面などの常時監視



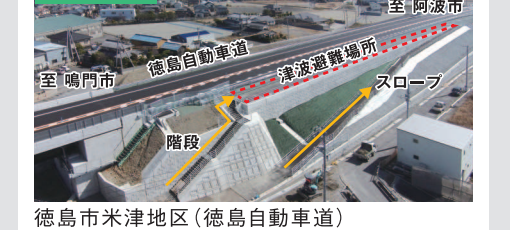
newron[®](NEXCO West Real-time Observation Network)
高速道路の自営回線と無線センサを活用したのり面などのモニタリングシステム

津波避難における高速道路の活用

地方公共団体等と協力し津波避難場所を高速道路に整備



整備状況



01 高速道路の安全・安心をいつまでも守り抜く

02 多発する自然災害から地域と暮らしを守り抜く

03 新しいモビリティ社会に向けて高速道路を進化させる

04 高速道路の顧客体験価値を高める

05 持続的に進化させる企業を目指す